

## 恩送り、恩返し

学校教育課 指導主事 行徳武彦

1890年、親善使節団として来日していたトルコの軍艦エルトゥールル号が台風に遭遇し暴風雨の中で沈没しました。「エルトゥールル号海難事故」と呼ばれています。500名以上が犠牲になる大惨事でしたが69名の船員が生き残りました。和歌山県紀伊大島樫野の村民が総出で救出活動を行い、トルコ人乗組員を助けたのです。救出は困難を極めたといえます。負傷者をおかついで60mの断崖を登ったそうです。村民たちは、冷え切った船員の体を人肌で温め、さらには非常事態のために蓄えていたさつまいもや鶏などをトルコ人に提供したそうです。

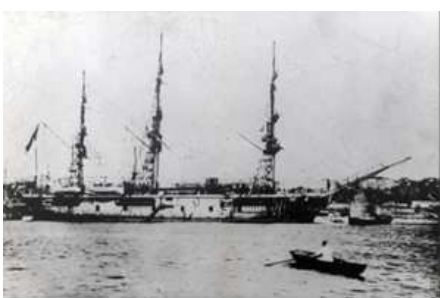
その後、負傷者は明治天皇の指示で派遣された軍艦で神戸の病院に運ばれ、本格的な手当てを受けます。快復したトルコ人69名を、海軍兵学校の練習船「比叡」と「金剛」でトルコのイスタンブールまで送り届けています。

話はさらに続きます。「エルトゥールル号海難事故」から約100年後の1985年のことです。イラン・イラク戦争のただ中で、イランのメハラバード空港に取り残され、イラクによる攻撃の的にされた日本人215名を、トルコ航空機が危機一髪のところまで救出してくれるという出来事がありました。この救出劇は「エルトゥールル号救援」に対する恩返しの一面があったといわれています。

100年前の明治の日本人が見せた美しい精神や惻隱の情が、このように脈々と生きているという事実を、児童生徒に語り伝えていきたいものです。

この2つの出来事は「わたしたちの道徳 中学校」の中でも、「海と空－樫野の人々－」として取り上げられています。なお、日本・トルコの合作映画「海難1890」は、日本とトルコが長年にわたる友好関係を築くことにつながったこの2つの出来事を映画化したものです。この作品は友情が友情を生むプラスの連鎖の話であり、先生方はもちろん、多くの児童生徒にもぜひ見て欲しいと思います。

参考文献「語り継ぎたい美しい日本人の物語」 占部賢志著（致知出版社）



# 佐賀市教育研究発表会開催

さる1月26日(火)に、佐賀市立図書館にて平成27年度佐賀市教育研究発表会を開催しました。当日の参加者は、小学校56名、中学校19名、合わせて75名の参加でした。大変お忙しい中有難うございました。当日は教育研究所員(児童生徒理解部・課題研究部)合わせて22名の発表と、個人研究の12名の先生方の発表がありました。また、当日の発表についてのアンケートに感想、意見、そして質問等を多数書いていただきました。その1部だけ紹介します。なお、教育研究所員研究、個人研究の詳細については、後日研究紀要(CD-ROM)にしてお届けします。

## 課題研究部

- ◎ 保健のビデオについては、大変すばらしかったと思います。是非他校でも実践できるようお願いしたい。
- ◎ 冒頭の知・徳・体の中で、体育が軽視されているという投げ掛けに「確かに」と納得。体育の専門家が見たら「こんなの体育の授業じゃない」と感じるものが多くなっているのが実態だと思います。
- ◎ 中学校での技能面での指導(学習)方法はとても良く分かりました。あと、生徒自身の思い、考えはどう変わっているのか知りたいと思いました。
- ◎ 体育の授業における子ども達の「楽しい」の本質について学ぶことができた。どれだけ運動の特質について触れ、運動量を確保し、めあてを達成することができることが大切だと分かった。
- ◎ 体育の研究は30年前ぐらいから変わっていないような気がしました。しかし、本日の発表を聞くと、改めて必要な指導であることに気づかされました。
- ◎ 発表を聞きながら、特に小学校では担任に専門性があるかないかによって、子ども達への指導が大きく変わることを実感していたことを思い返していました。そんな中、「誰にでもできる」のキーワードがあり、「自分にもできるが増えるんじゃないか」と感じることができました。具体的な実践例をたくさん聞くことができ、よい研修の機会となりました。



## 児童生徒理解部

- ◎ 集団を高めて個を育てる意識は大切です。単元を通して決定の仕方にも配慮をし、実践していくことが大切だと思いました。
- ◎ 子どもに望むことや子どもが取り組んだことを可視化することの重要性、また子どもは関わりの中でこそ、学び成長することを改めて認識しました。先生方がかわり合いながら研究され深めてこられたことに敬意を表します。
- ◎ 自己有用感を高める為のメソッドをたくさん知り得ることができた。特に、毎日子ども達の連絡帳に友達の良かったところを書かせ、共有することは保護者との意思疎通を図る上でも、とても素朴な取り組みだと感じた。ぜひ実践したい。
- ◎ 自己有用感を高める手立ては、いろいろな場面で取り入れることができると感じました。「総合アセスメント」の必要性を感じました。
- ◎ 「可視化」という視点がとても良かったと思います。「可視化」することで子どもの意識が大きく変わります。また、今回のような研究を進めることで、教師自身の意識も子どもの承認へと向くと思います。継続して取り組むことで、子どもの有用感を高めていきたいものですね。



## 個人研究

- ◎ 若い先生の熱心な取り組みと真摯な発表に感銘を受けました。佐賀市の小中学校の若手が活躍していることにうれしく思います。私たちベテランはこのような若手の先生方のさらなる成長を期待しながら育成のためのチャンスや助言を今以上に与えられるよう努力する必要があると感じました。
- ◎ 共通したことは、子ども一人ひとりに目を向ける「ほめる」言葉や機会をより多く教師、児童・生徒ともに作ろうとしていくことがポイントだと捉えました。ありがとうございました。
- ◎ 配慮を要する子どもを理解できる学級づくりは、学級のことに留まらず学校全体にも通じる重要なことだと思いました。
- ◎ 小集団の位置付けが一つに限定されず、目的に応じて設定されていることは大変納得します。学習の形態の工夫が十分になされていますので、学び方はとても質が高まっているようで参考になりました。
- ◎ 初任研担当者の指導の難しさ、大切さを改めて感じました。人材育成の面で画期的なものでした。
- ◎ 体育科の実態に基づくしっかりとした研究でした。運動に対するイメージのグラフの縦軸については、数値化がどうだったのか、少し疑問に思いました。
- ◎ テーマがそれぞれとても興味深く聞くことができました。学級経営、教科指導に取り入れたいです。